

「縁あって当院にお出で下さって皆様と人と人の結びつきを持ちたい」そんな願いを込めて以前に発行していたMEMUレターをHPのなかで復活いたしました。獣医師という立場を離れ、一個人として、一飼い主としての声を聞いていただきたいと思います。そして、少しは皆様のお役に立つ情報などお知らせできれば幸いです。

良い患者さん方に恵まれ、良い診療ができることに感謝しつつ・・・

平成23年12月吉日

スタッフ紹介 病院にいるのはこんな人間達です・・・

女性陣の意向により写真の掲載はボツとなりましたので、実物をじっくりご覧下さい。

ちなみに、当院は院長がフェミニスト？のせいか、雑事に関しては女性の発言力が優勢です。

(自己紹介は各自が書いた原文のままです)

血液型で性格が分けられるとは思いませんが、ご注目下さい。半数以上がAB型なんです。

名 前	生年月日	職 種	血液型	動物家族
丸塚 裕紹	1952. 3. 17	院 長	AB	病院の居候全員
大野 曜子	1955. 10. 25	獣医師	AB	ニャン9匹
伊藤 聖	1973. 2. 23	A・H・T	AB	ゴン太(ボダー)・なつ(パピヨン)その他 計ワン5匹
廣瀬 なな	1988. 4. 30	A・H・T	O	亮(W・コーギー)
長谷川 麻衣	1984. 8. 11	トリマー	A	ベッティ(アメショー)

■まるつか動物病院

1977年にこの地で開業。おかげ様で34年が過ぎました。

■丸塚 裕紹

究極のホームドクターを目指して頑張っています。そして将来は暖かい南の島でビール片手に海を眺めボーと過ごすことを夢見ています。

■大野 曜子

一応、国家資格をもった獣医師ですが、臨床は苦手のペーパー獣医です。飼い主と獣医の間という立場を生かして皆様のお役に立ちたいと思っております。(MEMUレターの編集者です)

■伊藤 聖

お勤めを始めた頃は患者様とお話するのも苦手な乙女でしたが、今や2人の子持ちの肝っ玉母さんになりました。小さな子を育てながらの勤務はきついこともありますが、やはりこの仕事が好きです！

■廣瀬 なな

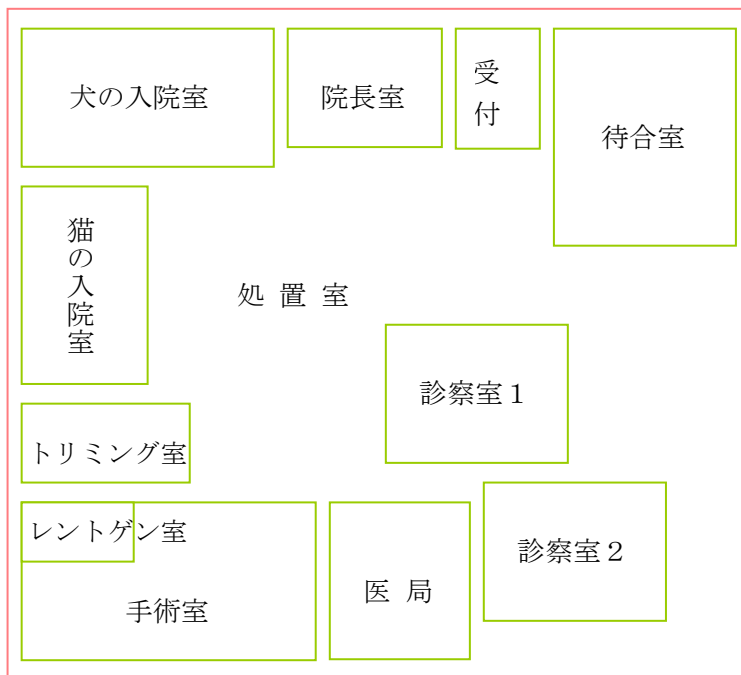
今年、念願の車の免許をとりました！ 休日のドライブが楽しみです。でも、病院の人間はまだ誰も私の運転する車に同乗していません。なぜでしょう？？ 勤務して3年近くが過ぎ、仕事の楽しさ、怖さが少しわかってきました。

■長谷川 麻衣

住宅の事情で今は新しい子を迎えることができませんが、いつかイヌとも暮らしたいと思っています。トリミングを終えてお返ししたときに、可愛くなったと喜んでいただけるのが何より嬉しく励みになっています。

病院のなかってどうなってるの？

普段、皆様がお入りになるのは診察室だけですね。奥はこんな風になっています。
見学ご希望ならいつでもどうぞ！（と言ってもそんなに広くはありませんが）



玄関ドア — ワンちゃんが体当たりしても開かないように重いドアにしています。
処置室 — 検査機器などが置いてあります。各種検査・薬の調剤、時おりは処置を行うこともあります。常時監視の必要な容態のペットはこの部屋にあるICUケージに入院します。
手術室 — 麻酔器・生体監視モニター・超音波診断機などの器機が備えてあります。
レントゲン室 — 鉛のドアで遮断されたレントゲン撮影のための部屋です。
入院室 — 入院とお泊りのためのケージが30ほど犬と猫に分かれた部屋におかれています。
トリミング室 — トリマーの聖域です
院長室 — 最近、院長と居候ネコが縄張り争いを繰り広げています。
医局 — スタッフの部屋です。物置ともいいます。

以下は過去に発刊したMEMUレターの中からいくつかの記事を抜粋してみました。

■ 動物病院に関する職業 ■

獣医師：大学の獣医科(全国で16校)で6年間学び、獣医師国家試験に合格すると、農林水産大臣の名で獣医師免許が交付され獣医師となります。小動物臨床・産業動物臨床・行政職・研究職等、卒業後の進路は様々で私達のように動物病院で働く獣医師は全体の25%くらいです。人間の医師のようなインターン制度はありませんので、通常は開業医のところに勤務しながら臨床の勉強を積んでいきます。ちなみに今は獣医科の学生の半分以上は女性だそうです。

AHT：アニマルヘルステクニシャンの略で、動物看護師・VT(ベテリナリーテクニシャン)とも呼ばれます。

主な仕事は診療助手、簡単に言えば、人間の病院の看護婦さんでしょうか。患者さんと獣医師を結ぶ役目もあります。一般的には動物看護のカリキュラムが組み込まれた専門(養成)学校で勉強します。

トリマー：ペットの美容師です。しかし、人間と違い、頭髪だけでなく、爪切り、耳の手入れなど、身体全般のケアを行います。一般的には専門学校・養成スクールで基礎知識と技術を身に付けます。

*AHT・トリマーともに公認資格で、カリキュラムも学校によって異なるのが現状です。動物病院では、この二つを兼業、あるいは診療以外のすべての仕事をこなしている場合が多くあります。獣医師とは違った立場で病院にはかかせない存在です。

マネージャー：日本の動物病院においては専任でこの仕事をしている人はほとんどいません。(アメリカでは専門職として認められています)が病院運営をします。皆様にどんなサービスを提供したら良いか、などと考えるのも仕事の一つです。

* 当院における現状

皆様が目になさること＝診療は私達の仕事の一部です。朝の掃除から始まって、診療終了後の片付けまで様々な仕事があります。当院では、専門職の人間しかいませんので、これらの仕事は分担してみんなでやります。雑用は手の空いている者が、気づいた時に速やかにやる、というのが基本です。(院長は例外で～す)

× これについて院長からクレームがきました。事実を書くと・・・確かに、休診日は院長が入院やホテルの子のお世話や掃除をすることもあります。さらに、夜間の治療、診療時間外の急患の対応もありますので、ボーッと新聞を読んでいるようでも結構大変なのかもしれません・・・

なぜ今の職業を選んだのか？ スタッフにインタビューしました。そろって、「動物が好きだから」といういたって当たり前の答えで、記事になりませんでした。しかし、これに尽きるのかもしれませんが。日々、動物達と接し、動物を愛する飼い主の皆様とお話することが楽しみです。現実には、力及ばず亡くなる子もあり、仕事を続けていくうえでは各人が心の内に思うことはあるでしょうが、この仕事続けていきたいというのが、スタッフの気持ちでした。

雑談 昔は・・・そしてこれからは

獣医大学は6年制と書きましたが、私の頃は4年制でした。イヌの行動学の草分け的存在であるコンラート・ローレンツに憧れ、イヌのお医者さんへの夢をふくらませて獣医科に入学したら・・・最初の専門科目は「畜産学概論」でした。あれ？ 授業で習うのは、牛・馬・鶏がほとんど。アレ？？ 何か違うと思いつつも退学する根性もなく卒業。獣医師免許を手に入れたところで弟子入りした時は小動物の臨床医としてはまったく使い物になりませんでした。獣医学のレベルも今とは違いますから、そんな獣医でも取りあえず病院においてもらえたのでしょうが、そのかわり、当時はまさに徒弟制度でした。“お勉強させていただく”訳ですから、給料もなく貰えるのはお小遣い。勤務時間も、休日も不定期で、一日の大半を病院で過ごしていました。「お礼奉公」なんて言葉もありました。30年ほど前の話です。その後、獣医、ことに小動物臨床の世界はいろいろな面で、大きく変わってきました。ペットに対する日本人の意識の変化とともに、といった気がします。コンパニオンアニマルとしてペットを考える今、臨床獣医師、関連専門職の人間はより深く、広い知識や技術を求められています。また動物病院もホームドクター、専門医(眼科、皮膚科・・・etc)、高度医療病院と細分化しつつあります。うちの病院ではホームドクターとして何をすべきかを見極め、研鑽していきたいと思っております。

■ 薬の話 ■

当院では内用薬・外用薬・注射薬・その他、合わせて200種類ほどの薬、延べ数300ほどの薬を用意してあります(一般の動物病院の場合、診療科目が別れていませんので、内科・外科・歯科 etc の薬が必要となります)。

ご存知でしたでしょうか、そのほとんどが人間薬なのです。動物薬は数が少なく、効果的な薬を使おうとすればどうしても人事薬に頼らざるを得ません。新薬の開発には莫大な費用がかかります。人間に比べれば小数の動物、そのまた一部のイヌやネコのために、そうそう新薬を開発できないのかもしれませんが。もちろん、人事薬の使用に際しては、副作用等のデータを十分にしらべたうえで処方していますから心配はありませんが、問題は量です。体重によって薬の量を決めますから、成人の体重のおよそ1/60ほどの体重1kgの子では、一回の薬の量が1/8錠なんてこともあります。スタッフは手があいている時は“内職”と称して、分割した薬をつくりストックしています。小型のワンちゃん、ネコちゃんの飼い主さんが、「なに、このカスのような薬・・・」と思われるでしょうが、こういう事情があります。逆に、動物薬の場合は、小型の子を基準にしますから、大きい子だと1回の錠数が多くなってしまいます。

お出しする薬についてももう少し詳しい説明をお渡しできるように検討中ですが、ご質問があればお気軽に獣医師にお尋ね下さい。

投薬について・・・

「薬を飲ませる・・・」考えただけで頭が痛くなる方もいらっしゃるかと思います。抵抗する、気配を察して逃げる、飲んだと思ったのに吐き出す・・・確かに手強い子も多いですから、憂鬱になれる気持ちもわかります。けれど、それならお薬は飲まなくて良いです、という訳にもいきません。特に抗生物質やステロイド剤は処方通りに飲ませていただかないと問題がおきることがあります。手強い子はケースに応じた対応策を考えますのでご相談下さい。

■ 医療器械 ■

新規開業時に最低500万円～1000万円かかるといわれる医療器械です。

これはあくまでも新規開業であって、診療を続けていく間には器械が増えたり、よりグレードの高いものに買い換えたりします。日々、新しい器械がでるなか、獣医師は当然、より良いものをと、望みますが、マネージャーとしてはちょっと考えてしまいます。高額な器械をいれれば、その負担は飼い主さんにいきます。また、院長は若い獣医たちに、臨床にもっとも必要なのは、器械ではなく人間の五感だ！とも言います。例えば、嘔吐と食欲不振で来院した子がいるとします。この場合はまず五感を使って診察し、飼い主さんから状況をお伺いし、内科的疾患の疑いがあれば必要に応じて生化学分析器をつかって血液検査をします。また、異物摂取や腸閉塞などの可能性があると考えればレントゲンをとります。器械はそれを使う獣医師の知識・技量・経験があってこそ生かされるものでしょう。(使う必要があるときを判断し、そのデータを、臨床症状とあわせて的確に読み取れなければ何の役にも立ちません)

臨床例が少なく高度医療を必要とする疾患は、安心して依頼できる大学病院などをご紹介するのが当院の方針です。ホームドクターとしてのうちの病院には何が必要なのかをよく考え、設備の充実を図っていきたく思います。

具体的に動物病院にどんなものがあるのか主だったものをあげてみました。

価格は、一番安い輸液ポンプで10万円くらいから、高いもので数千万円です。

診断に使う器械 — レントゲン・自動現像器・超音波診断装置・内視鏡

主に手術に使う器械 — 麻酔器・人工呼吸器・無影灯・生体監視モニタ・心電計・血圧計測器
電気メス・ガス滅菌器・レーザー手術装置

検査に使う器械 — 顕微鏡・生化学自動分析装置・自動血球計数器

治療に使う器械 — 輸液ポンプ・超音波スケラー・レーザー治療器

この他にもいろいろな器械があります。大学病院や一部の大病院では1億円近いMRI(磁器共鳴画像診断装置)や放射線治療装置を備えているところもあります。

最後にうちのドメインにもなっている ”MEMU“ のことです。

開業したての頃、生まれて間もない猫を捨てられました。懸命に里親さんを探したのですが2匹が残ってしまいました。それまでは院長も私もバリバリの犬派でしたが止むを得ずこの2匹を育てることになり、猫の魅力に目覚めてしまいました！MEMUは思い出深いこの2匹の猫、メオ(MEMEO)とムームー(MUMU)の名前からとっています。